

1. 研究主題

児童の意欲を高め、「わかった」「できた」と実感する授業作り
～ユニバーサルデザインの視点を生かした国語科「読むこと」の指導の工夫～

①主題設定の理由

特別支援教育は、LD、ADHD、高機能自閉症も含め、障害のある児童に対して、適切な指導や必要な支援を行うものである。しかし、一人一人の教育的ニーズを把握した適切な教育的支援は、障害の有無にかかわらず、すべての児童の指導においても必要である。

文部科学省（中央教育審議会）では、「障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備の充実」を図る上で、「ユニバーサルデザインの考え方も考慮しつつ進めていくことが重要である」とある。

また、千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課では、「授業を実施するに当たっては、障害の有無にかかわらず、どの児童にとってもわかりやすい授業を実践するためには、ユニバーサルデザインに配慮した取り組みが望まれる」とある。

このように、特別な教育的ニーズが必要な児童に対する指導を拡大し、誰にでもわかりやすい、わかったと実感できる授業作り、誰でも参加できる学級集団作り、言い換えれば学校生活のユニバーサルデザインの視点をとり入れた授業作りや学級経営に学校で取り組んでいく必要が求められている。

②従来の指導の成果と課題

昨年度より、児童の学習に対する意識の向上や「わかった」「できた」と感じることができるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践を行ってきた。

本校の児童は、県学力テストにおいて国語科・算数科共に県平均を下回っている学年がほとんどである。特に算数科の「技能」と「考え方」においては、学力の二極化ともいえる傾向が強い。さらに、問題の意図を読み取ることができない児童が複数いる。これは、県学力テストの国語科の「読むこと」の領域が低いことも一因であると考えられる。家庭学習については、内容や学習量に個人差が見られる傾向がある。また、授業での話し合い活動においても、思考・表現力に大きく差が生じるといった課題がある。

③本校の児童の実態

本校の児童の傾向としては、明るく大変素直である。また、思いやりの心もあり、与えられた課題に対しては熱心に取り組むことができる。各学年は、単学級であり、児童のうち、「学習や生活に困り感のある児童、特別な配慮の必要な児童」の割合は高い。また、学習活動に進んで参加し、理解させたり、習得させたりする配慮は十分であるとは言えず、すべての児童が基礎的・基本的な知識・技能を理解し、習得できる授業の展開が課題となっている。

④大森小の児童をこの研究を通してどんな児童に育てたいか？（目指す児童の姿）

＜大森小 学校教育目標＞
「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる子ども」
～ユニバーサルデザインを取り入れた経営の充実～

＜大森小 児童像＞

- ①思いやりの心を持ち 素直で明るい子ども
- ②学習の楽しさを知り 自ら学ぶ子ども
- ③自ら運動し 体をきたえ 丈夫で健康な子ども

30年度に引き続き、大森小学校の目指す児童の姿として、「学習の楽しさを知り、自ら学ぶ子」である。具体像として「今日も学校へ来て自信が持てた」である。自信を持たせるための今年度の重点は「基礎基本の徹底」である。全ての児童に、基礎基本の理解と習得を目指すために「ユニバーサルデザイン」の視点を積極的に取り入れていく。ユニバーサルデザイン化された授業を通して、どのような児童を目指すのか、以下の3点のとおりである。

<研究（各教科の授業を通して）>

①学び合う楽しさを知り、できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ることで、主体的に学習に取り組もうとする児童（学びに向かう力・人間性）

UDの視点 参加（活動する）→理解（わかる）

①に関する目指す児童の姿

参加する、活動する楽しさを感じる

- ・安心して学ぶ児童
- ・主体的に学ぶ児童
- ・自分の力で課題を解決しようとする児童
- ・学習に楽しさを感じる児童

できた達成感やわかる喜びを得る

- ・できた達成感を感じる児童
- ・わかる喜びを感じる児童
- ・既習事項を使って課題を克服しようとする児童
- ・課題をしっかりと捉えることができる児童

②自分の考えをわかりやすく表現したり、話し合いを通してよりよい考えに高めたりすることができる児童（思考力・判断力・表現力）

UDの視点 参加（活動する）→理解（わかる）

②に関する目指す児童の姿

自分の考えをわかりやすく表現する

- ・これまでの学習を生かして、自分の考えを表現できる児童
- ・ペアやグループ、全体の場で自分の考えを伝えることができる児童

話し合いを通してより良い考えに高める

- ・根拠を明らかにして、相手に説明できる児童
- ・相手の考えを理解し、質問や付け足しのできる児童
- ・共通点や相違点に気付くことができる児童

③ドリルタイムや家庭学習に進んで取り組み、学習内容を習得・活用できる児童（知識・技能）

UDの視点 習得（身に付ける）→活用（使う）

③に関する目指す児童の姿

学習したことを身に付ける

- ・家庭学習にきちんと取り組む児童
- ・自分で学習できる児童
- ・予習、復習ができる児童
- ・基礎基本を身につけた児童

⑤学習指導要領の内容を構造的に整理

小学校教育の基本（1）		
基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。		
↑	↑	↑
学級経営の充実	生徒指導の充実	児童の発達を支える指導の充実
学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。	児童が、自己の存在感を発揮しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくこと	児童が基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童や学校の実態に応じ、個別学習やグループ学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補

	ができるよう、児童理解を深め、学習指導と関連付けながら、 <u>生徒指導の充実を図ること。</u>	充的・発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、 <u>指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。</u>
--	---	---

学習指導要領（第1章 総則より）29年2月

⑥この変容に導くためにどんな手立てが必要か？

学級経営・生徒指導の観点より（UDの☆大前提）

1. 時間の構造化（授業全体の見直し）
2. 場の構造化（徹底した整理整頓）
3. 刺激量の調整（掲示物の整理・精選）
4. ルールの明確化（暗黙のルールは× ルールを守る経験）
5. クラス内の理解促進（誰もが輝く 目が輝く 良さを認める）

↑学級環境をUD化することで、どの子も安心して学習できる状態となる

①学び合う楽しさを知り、できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ること
で、主体的に学習に取り組もうとする児童（学びに向かう力・人間性）

UDの視点 参加（活動する）→理解（わかる）

<手立て>

（1）生徒指導の機能を生かした授業

- ・自己決定の場を設定する。
（学習課題が児童一人一人のものになるように焦点化する）
（思考や観察場面で、考えたり見たりする視点を示す）
- ・自己存在感、自己有用感、充実感が味わえる場を設定する
（学習の流れや学習情報、ネームカード等で視覚化する）
- ・共感的人間関係が作れるようにする。
（間違っても安心な雰囲気作りに努める）
（児童の思考に合わせて、児童同士をつなげる発問を工夫する）

視覚化

焦点化

（2）つまずきを想定した明確な授業

- ・進め方、説明の方法、体験させる内容、タイミングを工夫する。
- ・児童の実態に即した素材を開発し、提示方法を工夫する。
- ・身体性の活用を図り、動きのある授業を展開する。
- ・個に応じた課題設定と踏み台作りをする。
- ・個別の配慮を行い、学習活動への参加を促す。

展開の構造化

動作化・作業化

スモールステップ化

※個別の配慮 →授業に参加できるようにするための配慮。その子を授業に戻す前提の工夫。

②自分の考えをわかりやすく表現したり、話し合いを通してよりよい考えに高めたりすることが
できる児童（思考力・判断力・表現力）

UDの視点 参加（活動する）→理解（わかる）

<手立て>

（1）表現方法の工夫

- ・ホワイトボードや付箋、ノートを活用し、思考の可視化を図る。
- ・式、図、表、言葉等、多様な方法を組み合わせる表現させる。
- ・目的にあった思考ツールを選択し、活用する。

視覚化

（2）発表方法の工夫

- ・ホワイトボード、ICTを積極的に活用する。

共有化

- ・ペア、グループでの話し合いを積極的に取り入れる。
- ・発問や問い返しの工夫をする。
- ・発表のエキスを板書やホワイトボードに表現し、思考の可視化を図る。
- ・話し合いのルールを明確にする。

③ドリルタイムや家庭学習に進んで取り組み、学習内容を習得・活用できる児童
(知識・技能)

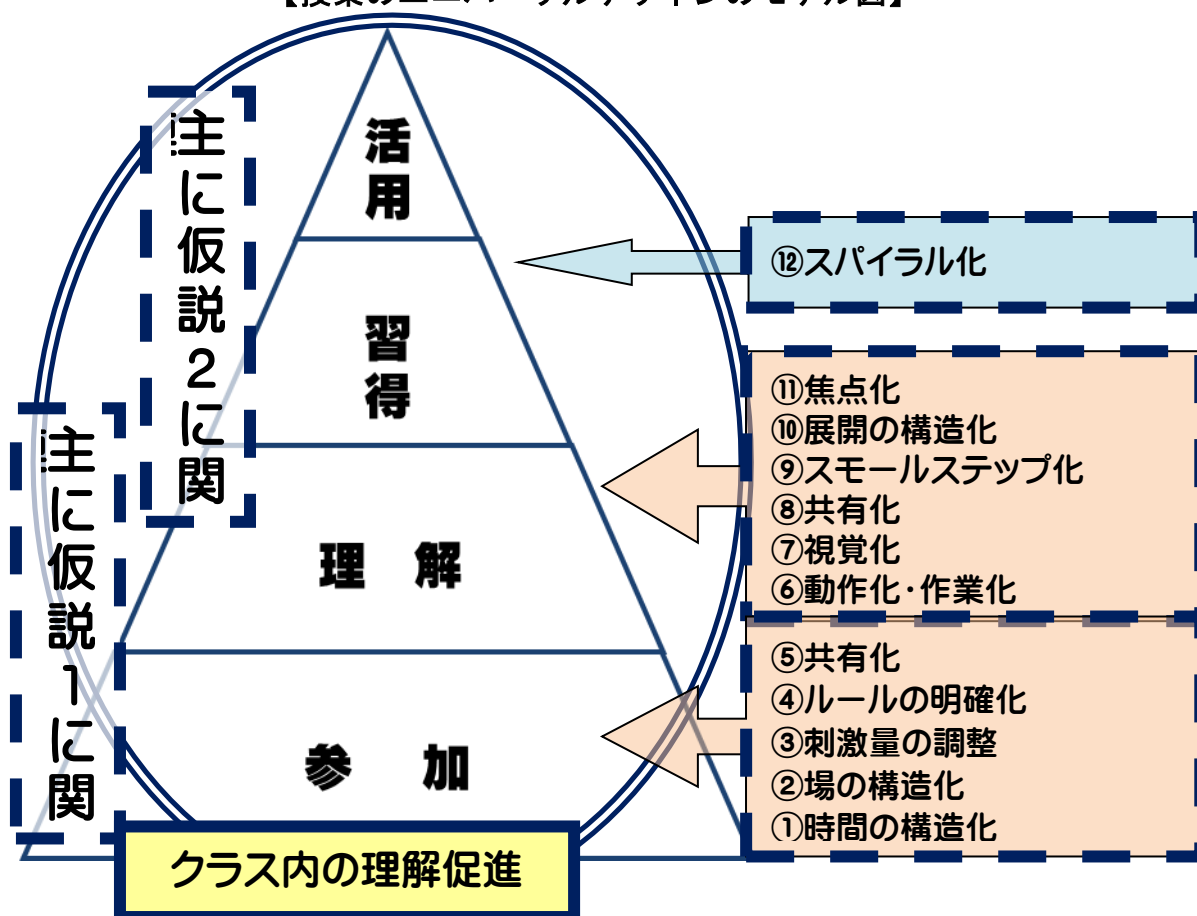
UD の視点 習得（身に付ける）→活用（使う）

(1) 学びの手応えを感じ取らせる指導の工夫

- ・学び直しの時間、既習事項確認の場の設定をする。
- ・音読指導の充実と、家庭学習の指導の工夫をする。
- ・基礎学力向上のための反復学習（ドリルタイム）を行う。
- ・個に特化した指導を行う。 ※個に特化した指導 →授業外に行われる補充指導。

スパイラル化

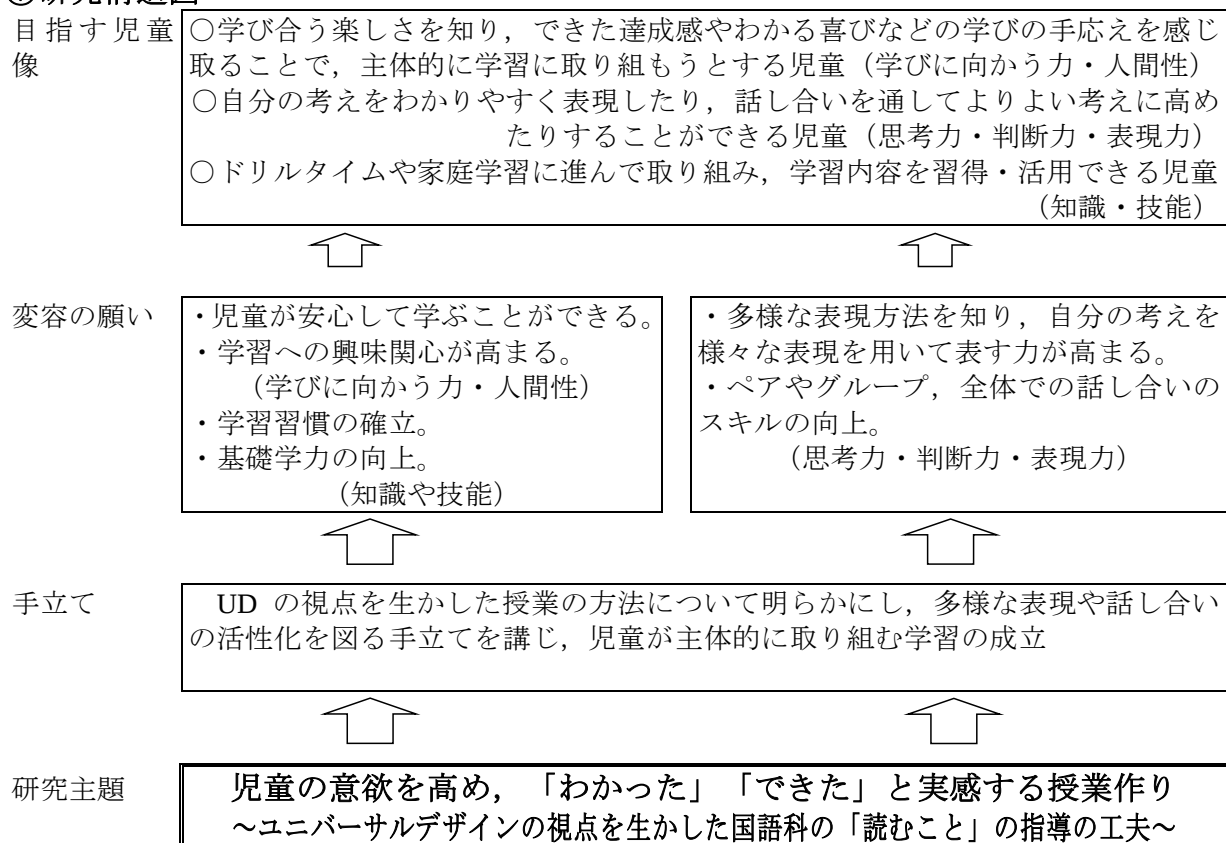
【授業のユニバーサルデザインのモデル図】



<指導方法のUD化>

- ・時間の構造化 →授業全体の見通しを見える形にすること。
- ・場の構造化 →教室や道具等、学習環境を徹底して整理整頓すること。
- ・刺激量の調整 →掲示物、音等の刺激を減らすこと。
- ・ルールの明確化 →暗黙のルールを作らず、きまりを示すこと。
- ・クラス内の理解促進 →誰もが活躍し、助け合い、良さを認め合う場面を設定すること。
- ・共有化 →学び合い、考えを伝え合い、教え合ったりすること。
- ・動作化、作業化 →体や感覚を使った授業、活動のこと。
- ・視覚化 →板書や話し合いの可視化といった情報伝達の工夫すること。
- ・スモールステップ化 →その子に合った踏み台を用意すること。
- ・展開の構造化 →進め方、説明方法、何を体験させるか等、授業の展開の構成すること。
- ・焦点化 →何を教えるかしぼること。内容をフォーカスし、構成をシンプルにすること。
- ・スパイラル化 →既習事項を復習する内容を取り込むこと。

⑦研究構造図



小学校教育の基本（１）

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。

学級経営の充実	生徒指導の充実	児童の発達を支える指導の充実
学習や生活の基盤として，教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため，日頃から <u>学級経営の充実</u> を図ること。	児童が，自己の存在感を発揮しながら，よりよい人間関係を形成し，有意義で充実した学校生活を送る中で，現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう，児童理解を深め，学習指導と関連付けながら， <u>生徒指導の充実</u> を図ること。	児童が基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め，学習内容を確実に身に付けることができるよう，児童や学校の実態に応じ，個別学習やグループ学習，繰り返し学習，学習内容の習熟の程度に応じた学習，児童の興味・関心等に応じた課題学習，補充的・発展的な学習などの学習活動を取り入れることや，教師間の協力による指導体制を確保することなど， <u>指導方法や指導体制の工夫改善</u> により，個に応じた指導の <u>充実</u> を図ること。

学習指導要領（第１章 総則より）２９年２月

２．研究目標

国語科の学習において，UD の視点を生かした授業を展開し，多様な表現方法を用いた話し合いの活性化を工夫することで，児童に学ぶ喜びを感じさせるとともに，達成感や成就感を味わわせ，自信をもって学習に取り組む児童の育成を図る。

「研究の教科」

「手立て」

「変容」

「目指す児童像」

3. 研究仮説

仮説 1

UD の視点を生かした授業を展開し，児童に学ぶ喜びや達成感を感じさせていけば，主体的に各教科の学習に取り組むことができるだろう。

仮説 2

学び合いの場や思考の可視化を工夫し，進んで考えたり話し合ったりしていけば，考えを深めることができるだろう。

4. 検証計画

観点	視点	方法
知識・技能	- 基礎学力の向上 - 既習事項の理解 - 自力解決時の行動 - 練習問題でのチェック	学力テスト ノート ノート
思考力・判断力・表現力	- 表現方法の工夫 - 話し合いへの参加	ノート 授業観察
学びに向かう力・人間性	- アンケート（児童） - UD の視点を生かした授業	児童の意識調査 ノートへの感想 チェックリスト

5. 研究の内容と方法

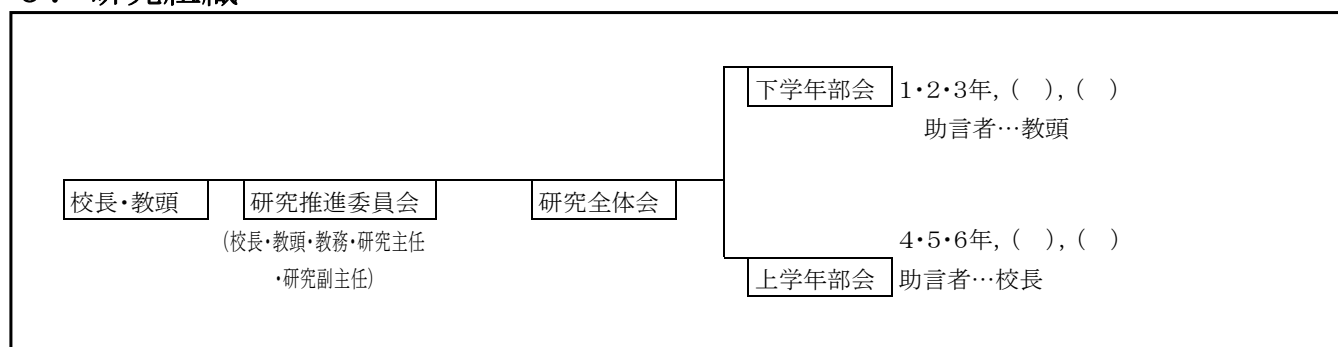
（1）理論研究

- 先行文献や実践校の資料を活用し，研究教科における効果的な指導方法の研究を行う。
- 国語科における「読むこと」の研究を行う。

（2）実践研究

- 児童のつまずきを想定して，授業計画を立てる。
- 児童に学習習慣が身につくよう実践する。
- 授業改善を図るため，問題提示や話し合いの仕方などについての研究を行う。
- 「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業」の構築を図る。

6. 研究組織



<UD を取り入れた授業作りの方法（研究授業）>

基礎教材研究

- ①学習指導要領検討
- ・ 学年の目標
 - ・ 学習内容
 - ・ 教科の見方，考え方

②教科書検討

③取材，実験

④実態調査



想定されるつまずき

徹底的に

どの子にもおきる

特定の子におきる

⑤指導計画

⑥本時の指導

何を山場にするか？

内容

個別の配慮

個に特化した指導

焦点化（山場作り）

変容③

山場	展開の 構造化	共有化	視覚 化	スモール ステップ 化	動作化 作業化	個別の配慮 A児 B児 C児		
	手立て①	手立て②		手立て①		手立て①		

UDの☆大前提

- ・ 時間の構造化
- ・ 場の構造化

変容②

変容①

⑦UD化された授業作り

⑧授業細案

- ・ 板書計画
- ・ 発問計画
- ・ 予想される児童の反応
- ・ ペア，グループ活動の支援

⑨模擬授業

7. 研修・研究計画

4月18日現在

月	日(曜)	研 修・研 究 内 容	研 修 方 法	備 考
4	2 (火) 11 (木) 18 (木) 25 (木)	職員会議 ○研修日程確認 ○エピペン研修 ○生徒指導「学校いじめ防止基本方針」 ○全体研修 (共通理解く学習の進め方, ノート指導, 指導案形式, 31年度年間指導計画について等) ○福祉教育の見通し	全体研修 全体研修 全体研修	地区児童会 集団下校 1年防犯教室 全国学力調査 歯科検診
5	9 (木) 16 (木) 23 (木) 30 (木)	○清掃研修会 ○部会研修 (指導案検討①) 職員会議 ○部会研修 (指導案検討②)	部会研修 部会研修	耳鼻科検診 部会陸上大会予備日
6	6 (木) 13 (木) 20 (木) 27 (木)	○全体研修 (3校合同救急救命法研修) ○指導案製本・授業準備 ◎第1回校内授業研究会 (2年・6年・わかば・ことば) 職員会議		
7	4 (木) 11 (木) 18 (木)	※成績処理期間・通知表観点の確認 ※創立記念式典前日準備 ※学年末事務処理	個人研修 個人研修	特別日課
7	夏季休業	※夏季研修については未定 ◎国語科・道徳研修等 (講師招聘) ◎外国語活動研修 (講師招聘) ◎教育相談研修 (講師招聘)		
8	() () () ()	※印教研教育講演会 ※印教研 (領域) ※印教研 (教科) ※校内体育実技伝達講習会	実技講習	
9	5 (木) 12 (木) 19 (木) 26 (木)	○道徳指導案検討① ◎絵画指導法研修 (講師招聘) ○道徳指導案検討② 職員会議	全体研修 全体研修 全体研修	読み聞かせ 4年クリーンセンター
10	3 (木) 10 (木) 17 (木) 24 (木) 31 (木)	○年間指導計画作成①・指導案製本 ◎道徳授業研究会 (講師招聘) ○部会研修 (指導案検討①) ○授業参観準備 職員会議	個人研修 全体研修 部会研修 個人研修	体力テスト ハートフルコンサート
11	6 (水) 7 (木) 14 (木) 20 (水) 28 (木)	市教研・小学校授業研修会 ○部会研修 (指導案検討②) ○指導案製本・授業準備 ◎校内授業研究会② (1年・4年・なかよし) 職員会議	部会研修 個人研修 全体研修	修学旅行1日目 駅伝予備日
12	5 (木) 11 (水) 12 (木) 19 (木)	※成績処理・通知表観点の確認 ◎書写実技研修 (講師招聘) ○部会研修 (指導案検討①) ○年間指導計画作成②	個人研修 児童対象 部会研修 個人研修	特別日課 書き初め練習会
1	9 (木) 16 (木) 23 (木) 30 (木)	○部会研修 (指導案検討②) ○指導案製本・授業準備 ◎校内授業研修会③ (3年・5年・音楽) 2/⑤ 日へ ○年間指導計画作成③	部会研修 個人研修 全体研修 個人研修	

2	6 (木) 13 (木) 20 (木) 27 (木)	○部会研修 (今年度の反省) ※学力検査 1 日目 ○全体研修 (研究のまとめ) 職員会議	部会研修 全体研修	学力テスト
3	6 (木) 12 (木) 19 (木)	※成績処理 ※学年末事務処理 ※学年末事務処理	個人研修	

※「年間指導計画」については、32 年度全面実施に向けて、各教科の指導計画を順次作成していく。教科書のない教科・領域についてはすぐに取りかかる。教科書決定次第取りかかる

8. その他の研修

☆領域研修「道徳研修」

- 毎週行っている道徳の授業をより充実させる。
- 授業研修会を設定し、授業を見合う機会を設ける。
※全校で道徳の授業を参観し、指導して頂く先生と日程を調整し、実施。(2 学期に予定)
- 授業参観時に 1 回は展開する。(映像教材等の活用を図る)

☆自主研修

- プロジェクト O (若年層) 研修については、該当教師による自主的な企画・運営を行っていく。
- (指導を受ける場合や講師依頼、授業参観等については早めに相談し、月行事に入れていく。)

☆その他

- ①救急法研修会 (プール指導の前に行う)
- ②教育相談研修 (夏季)
- ③書写実技研修 (12 月) 児童に直接指導
- ④外国語活動研修 (夏季)
- ⑤不祥事根絶及びモラルアップ研修 (学年始め・夏期休業前・運動会前に実施予定)
- ⑥ネットいじめに関する研修

※印西市教育委員会からの指導について

- 「教師の指導力向上計画」を校内研修に位置づけること
 - ・基本的に、全教員が指導案 (精案) を作成して研修する。
 - ・問題解決学習の授業構成を行い、実践的な研修をする。

＜本年度の主な重点目標（○）・具現化のための方策（☆）・具体的な手立て（※）＞

○子どもに学習の仕方を身につけさせる。（学び方・話し方・聞き方）

→☆基礎・基本となる学習内容の定着

- ※ 学習の仕方の掲示（各教室）
- ※ ノートに学習の仕方の手本を貼り、見られるようにする
- ※ 学校での共通した記号の使用
- ※ 話し合いの言葉の例示
- ※ 他教科での問題解決的学習の実施（実践モデルプログラム）
- ※ 発表するときと聞くときの約束の共通理解

○子どもが主体的（能動的）に学習に取り組めるようにさせる。

→☆単元の導入「つかむ段階」で、児童に＜考えたい・やってみたい＞
といった目的意識を持たせる工夫

- ※ 実態調査の実施
- ※ 教材研究及び導入時での算数的活動の実施
- ※ 提示方法の工夫（素材提示の仕方）及び発問や問い返しの工夫
- ※ 教材・教具の開発及び工夫

→☆展開「自力解決し、深め合う段階」で、児童に言葉や図・式などを使って考えの根拠をはっきりとさせ考えたり表現させたり、友達と対峙する考えを話し合わせる場の工夫

- ※ 思考の表現のさせ方
- ※ 学習形態の工夫（ペア、グループ学習など）

○授業研究を計画的に行い、教師の授業力を向上させる。

→☆ノート指導

- ※ 良いノートの学級掲示
- ※ 授業ごとの自己評価の実施（発達段階に応じて）
- ※ 児童の実態、自己評価からの反省を生かした次時の準備(改善)
- ※ 「生徒指導の機能を生かした授業」ができたのかの自己分析
- ※ 授業改善のための大森小としての評価基準の設定